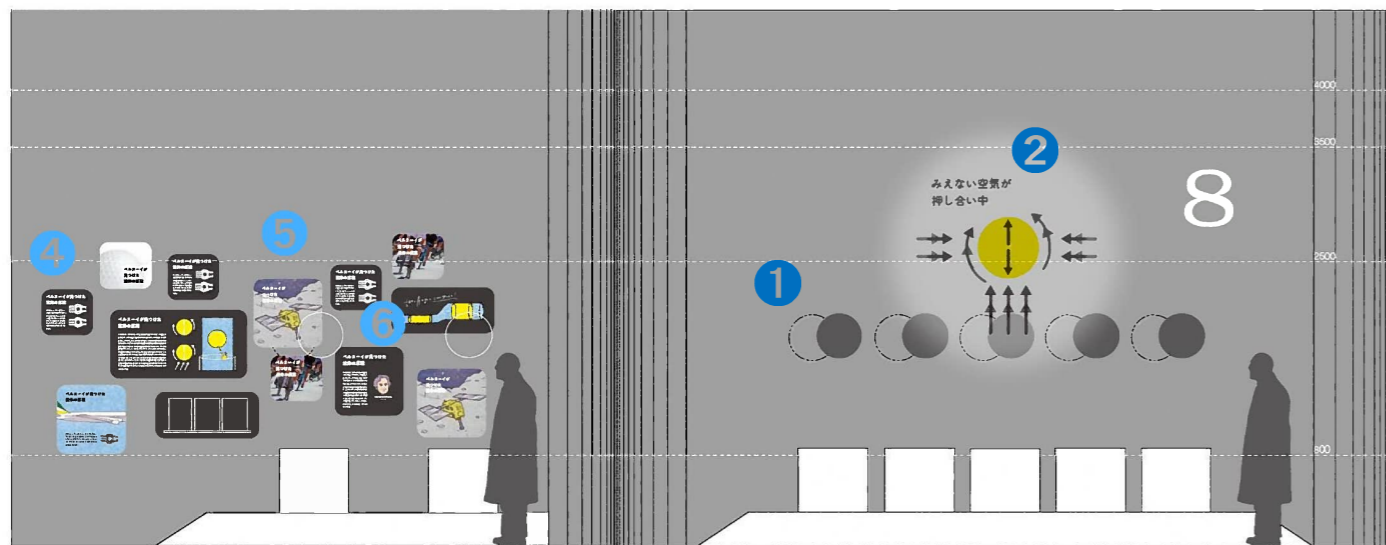


Zone 2 感じて考える 不思議な科学現象によるシンボル展示を通して楽しみながら科学的思考を養うゾーン

Zone 2 感じて考える 展示アイテム構成(「風の力で浮かぶ」を例に)



壁面展開イメージ



科学の不思議を感じるシンボルアイテム

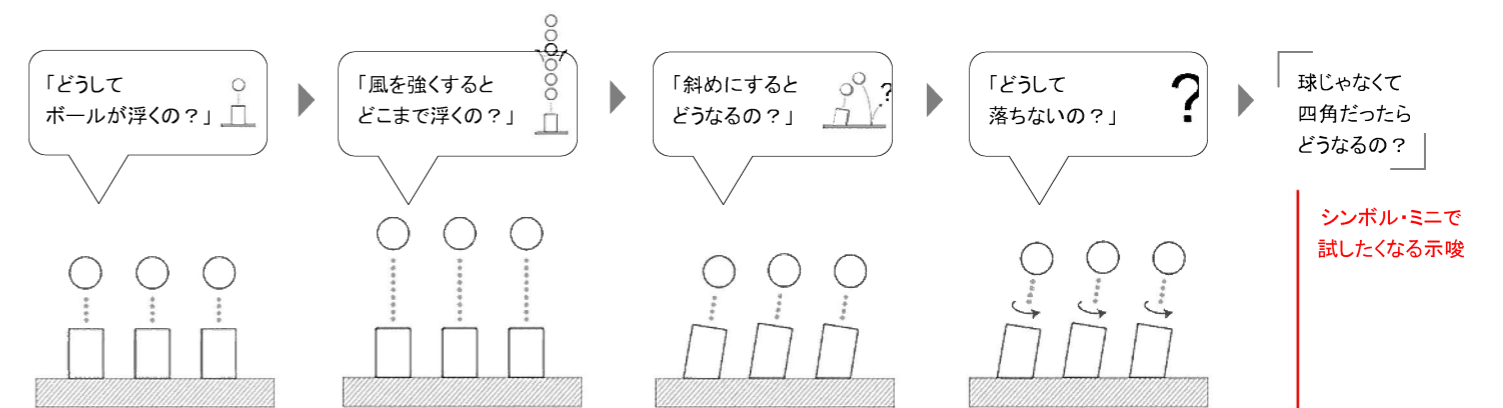
シンボルアイテムと示唆グラフィックを組み合わせた新科学館オリジナルの演出によって、直感的に「不思議を感じる」体験を提供します。

①シンボルアイテム

大きなシンボル展示を観察して、科学の現象の不思議さにじっくり向き合うことができます。

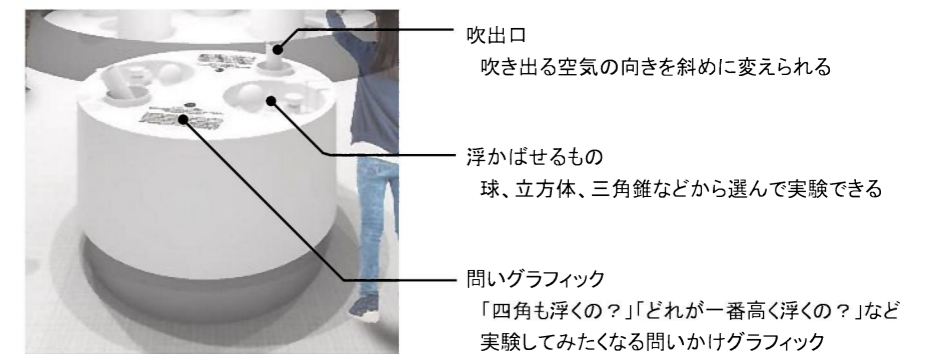
②示唆モーショングラフィック

展示アイテムの不思議なポイントを示唆する図やキャッチコピー。離れたところからでも目を引くように大きく映像で投影します。



③シンボル・ミニ

シンボルアイテムのまねをしたり、浮かばせるものを変えたりできる実験アイテムで、科学の原理を考えてもらいます。



多角的な視点で興味を喚起する解説計画

直感的に感じた科学の不思議に多角的な情報を与えることで、多様な「カガクのみかた」に気付いてもらいます。

④発見の視点

科学の原理・原則を図やイラストを用いながらわかりやすく紹介します。役立てられているか紹介します。
・流体力学
・ベルヌーイの定理

⑤くらしの視点

現象がくらしの中でどのように役立てられているか紹介します。
・飛行機がなぜ浮くのか
・ゴルフボールの凹凸のわけ

⑥歴史の視点

原理・原則を発見した経緯や発見した科学者に関するエピソードを紹介します。

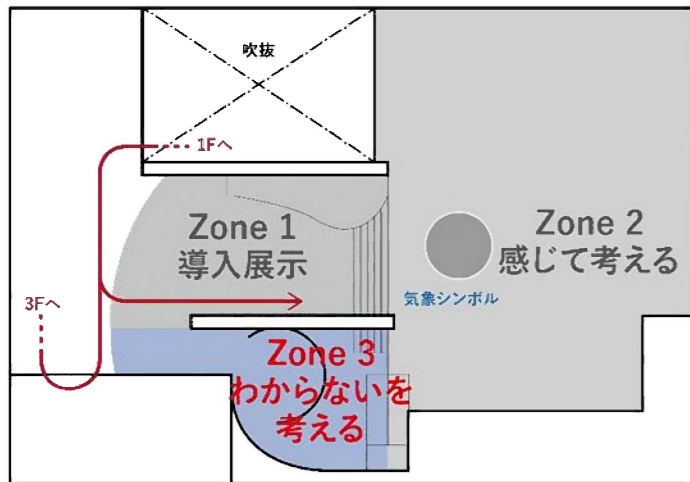
サイエンスショー

展示アイテムを使ったサイエンスショーを行い、普段と異なる体験・観察を通じて新たな一面を発見できます。また、グラフィックで語りつくせない歴史や関連する科学をトークショーで紹介합니다。

Zone 3 わからないを考える

過去の科学者の発見のきっかけや最新の科学の発見を伝えることで科学の探求心を養うゾーン

■平面構成



■展示構成案

Zone 3「わからないを考える」展示

現代科学でも解明され切っていない、身の回りに存在する様々な現象や、最新の科学を紹介します。

- ①わかってきたことを過去の科学者の視点で考える
- ②最新のわかってきたことを考える
- ③わからないことを考える

■展示イメージ



①わかってきたことを過去の科学者の視点で考える

科学史の中での重要な発見をもたらした偉大な科学者たちの「カガクのみカタ」を、グラフィック・映像・実物等で紹介。Zone2の展示と関連する内容で、さらなる科学を探究することへの意欲を掻き立てます。

(紹介例)

アイザック・ニュートンによる発見
展示室でも多く紹介する力学の歴史に先鞭をつけたニュートンの功績を紹介。また、わずか1年半の間に万有引力をはじめとしたさまざまな理論を打ち出した、ニュートンの思索に没頭する性格など、人となりに迫るエピソードも紹介

②最新のわかってきたことを考える

現在の最新科学を、どのようにして発見できたのかという「カガクのみカタ」に着目して紹介。可変グラフィックやデジタルサイネージを活用して、常に最新の科学を展示できる更新性の高い展示とします。

(紹介例)

Zone2の展示アイテムで取り上げる古典力学に対して、量子力学による近年の最新の発見や相対性理論などを紹介

③わからないことを考える



細胞・原子といったマイクロなスケールから宇宙空間まで、身の回りのあらゆる「わからない」ことを伝える、没入感豊かな体感型映像。ここまでの展示での様々な「カガクのみカタ」を通じて、想像力や考える力を高めてきた来館者に、未知の領域を直感的に伝えます。

- 地球の中はどんな色？
- 意識って何？
- 宇宙人はいるの？
- ブラックホールって？

身の回りにもわからないことがいっぱいある！

など